

推進地域用（都道府県）

【「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書様式】

（ 推進地域名 広島県 ）

I. 地域の概要（平成15年4月現在）

広島市安佐北地域（モデル校数2校：中学校1校，高等学校1校）
御調町地域（モデル校数2校：中学校1校，高等学校1校）
竹原市地域（モデル校数3校：小学校1校，中学校1校，高等学校1校）
豊栄・福富町地域（モデル校数1校：高等学校1校）
廿日市市地域（モデル校数1校：高等学校1校）

II. 各県における「総合的な学習の時間」の現状

1. 県として「総合的な学習の時間」の改善，充実を図るねらい

県内においても各学校創意工夫し，特色ある取組みを実施している学校が増えてきている。一方，まだ次のような課題もある。

○ 全体計画の中で，小・中・高等学校との有機的な関連，系統性をもって行われていない例（ねらい・学習内容・評価規準）

○ 体験のみに終わる，検証が不十分，教員の適切な指導を欠くなどにより，「総合的な学習の時間」の趣旨やねらいを踏まえた取組みになり得ていない例

これらをうけ，広島県では，総合的な学習の時間のねらいや趣旨にあった計画・学習内容・評価規準の作成及び「ものごとを深く考える力」「論理的に書く力」の育成を意識した総合的な学習の時間，マネジメントサイクルに基づいた総合的な学習の時間の創造をめざしている。

このような状況を改善していく中で，このモデル地域，モデル校においては，学習指導要領一部改正の趣旨やねらいを踏まえた実践を進め，その取組み等の情報を発信し，県内の「総合的な学習の時間」の一層の充実に資する。

2. 県内における「総合的な学習の時間」の問題点とその背景（近因，遠因）

○各学校ごとの「総合的な学習の時間」の問題点と背景

- ・ 趣旨やねらいが十分深められていないため，学校によっては活動だけで終わり，どんな力がついたか説明ができない課題がある。
- ・ 全体計画，年間計画及びつきたい力の観点は多くの学校で作成しているが，各教科との関連が明確になっていない例も多く，教科で学んだ力を生かす場の設定，指導が十分行われていないという課題がある。
- ・ 校種間の連携がないため，全体として発達段階に応じたカリキュラムになっていないという課題がある。

○学校間連携という観点での「総合的な学習の時間」の問題点と背景

- ・ 相互の学校の目標や学習内容，つきたい力の見通し（計画）等の連携が不十分なため，同一地域内の小・中学校で同じような学習内容を行うなど重複がみられるところがある。

○地域の教育力の活用という観点での「総合的な学習の時間」の問題点と背景

- ・ 多くの学校で地域の人材を活用した取組みを行っている。しかし，外部人材との連携が十分できていないため教育効果が上がらないという課題もある。

- ・ 外部人材確保において、小学校、中学校、高等学校で情報を共有することが不十分なため、有効な活用ができていない課題がある。

III. 平成15年度の実践研究の概要

1. 県内の抱える問題点（Ⅱ-2）を踏まえて定めた、推進地域全体としての研究の計画・見通し等

〔2年間を通じた研究の計画・見通し〕

① 解決すべき課題

- ・ 発達段階に応じたカリキュラムの作成。つけたい力と教科との関連を明確にした取組みの推進。
- ・ 小中高の連携を密にし、「総合的な学習の時間」の系統性（ねらい・学習内容・評価規準）の検証，外部人材の活用の可能性を探る。

② そのための具体的な取組み・方策

- ・ 全体推進協議会，モデル地域における協議会，モデル校への指導等を活用し，研究内容の具体化と焦点化，検証の視点や方法の明確化，進捗状況の確認等について指導・助言をする。
- ・ 全体推進協議会，モデル地域の実践発表会等を通して，モデル地域やモデル校同士の連携を図る。
- ・ 研究成果を他校に普及する機会（実践発表会，HP等）を通し，成果を広める。

③ その取組みの時期等

（平成15年度）

- ・ 各モデル地域における推進協議会の立ち上げ，研究の方向性の確認，小中合同研修会等：7～8月
- ・ 授業視察（文部科学省），全体推進協議会：9月
- ・ モデル地域における協議会，モデル校への指導：随時
- ・ 実践発表会（各モデル地域毎）：年度末（2月ごろ）
- ・ HP掲載（各校のHPは公開中）

〔モデル事業としての取組みの評価の観点と検証の方法〕

- ① つけたい力，教科との関連を明確にした全体計画の作成と授業作り
- ② 校種間の連携及び推進体制の確立
- ③ 外部人材の有効な活用

※小中高の教師による評価，招聘した指導教授，指導主事，他校教師，保護者，地域の方による評価。報告会等による外部評価。

2. 本事業の推進体制

別紙1 推進体制参照

3. 平成15年度の実践研究に対する指導と成果の普及

(1) モデル地域に対して行った指導

① 指導事項

- ・ 地域協議会，学校訪問等によるマネジメントサイクルに基づいた実践研究の指導助言
- ・ 研究の成果を図る指標としての質的・量的評価についての指導助言
- ・ 答申の改善方策を踏まえた指導助言

- ・ 中間報告会での指導助言
- ②指導の方策・方法
 - ・ 地域協議会において、研究の内容、方向性について指導助言
 - ・ 中間報告会において、これまでの取組みと今後の方向性について指導助言
- ③指導後の状況把握の取組みなど
 - ・ 市町教育委員会、学校との連携の中で把握

(2) 地域の取組みの成果普及のための活動について

- ・ 竹原市地域、御調町地域、廿日市地域とも中間報告会を実施。
- ・ 各校HPにて取組みの状況を掲載している。

4. 平成15年度の成果及び課題

- 〔成果〕
- ① 焦点化して研究を進めることにより、次のような成果があった。
 - ・ 「論理的な思考力」「豊かな表現力」を育てるために、各教科で培いたい2つの力を整理し到達目標を明確にすること、教師が意識して話し合い、発表や報告の場の設定をすれば、個の思考過程も進化していくケースが見られた。
 - ・ 中学校・高等学校で共通の育てたい力を明確にすることにより、学習目標・育てたい資質や能力を系統的に整理でき、それが指導に生かされた。
 - ② モデル地域協議会において部会（例：教育課程部会・研修部会・総合的な学習部会）を確立することにより、小中高12年間を見通したカリキュラムを作成することができた。
 - ③ 地域の人材を共有化することや、計画的にまた外部講師と連携を行った中で指導することにより、児童・生徒の総合的な学習に対する肯定的な意識が高まった。
- 〔課題〕
- ① 研究テーマ、研究の方向性に基づいた具体的実践とその評価・検証の充実
 - ② 研究の成果を普及するために実践記録・成果物を広く発信すること

IV. 平成16年度の実践研究の概要

- ①16年度に特に取り組みたい課題
 - ・ 研究仮説の検証及び研究会による幅広い普及
- ②そのための具体的な取組み・方策
 - ・ 地域協議会におけるマネジメントサイクルに基づいた指導助言
 - ・ 研究会における指導助言
- ③その取組み等の時期
(平成16年度)
 - ・ 全体推進協議会：実践交流会と本年度の研究の方向性の確認 5月
 - ・ 授業視察（文部科学省）：9月ごろ
 - ・ モデル地域における協議会、モデル校への指導：随時 各モデル地域用中間報告書（別紙2）に詳細記入
 - ・ 実践発表会（各地域毎）：随時
 - ・ HP作成：年度中（各校のHPは公開中） 平成16年

- ④ そのために、特にモデル地域に対し指導すべき事項
- | | |
|-------|---------------------------|
| 5月 | 全体計画を踏まえた具体的な授業改善について指導助言 |
| 6月 | マネジメントサイクルに基づいた実践研究の指導助言 |
| 7月 | |
| 8月 | |
| 9月 | |
| 10月 | 研究会における指導助言
普及に向けたまとめ |
| 11月 | |
| 12月 | |
| 平成17年 | |
| 1月 | |
| 2月 | |

(別紙1) 推進体制

